

Interview

災害とレーシック

「“見える”ことの大切さを改めて実感しました」



小笠原孝祐 先生

小笠原眼科クリニック院長 医学博士
盛岡市眼科医会(ひとみ会)会長、岩手県予防医学協会眼底検診専門委員など、地域の眼科医療に精力的に取り組まれています。
<http://www13.plala.or.jp/ogaswara/>

——2007年の中越沖地震のあとに、身の安全のためにレーシックを受けるという人が増えたそうですが、今回の震災でもレーシックの価値が改めて注目されたのではないのでしょうか？

小笠原 そうですね。被災地では皆さん、とるものもとらず避難されたので、メガネを流されてしまった方や、予備のコンタクトレンズがないためワンデーコンタクトレンズを二週間入れっぱなしですとか、洗浄液がない、ケースがないなど、たくさんの方が困っていました。眼鏡の人は眼鏡を無くしてしまうと本当に見えません。眼鏡ボランティアの方にアバウトな眼鏡を提供してもらうまではまったく見えない状態だったという方がたくさんいらっしゃいました。

私の高校時代の同級生が盛岡で眼鏡店を営んでいまして、3月18日から被災地に入って近視や老眼のメガネを5月中旬までに約2,600個を配布しました。私もメガネ、コンタクトレンズや、レンズの洗浄液、ケースを配布する活動を支援しました。避難所ではメガネケースが欲しいという方もたくさんおられ、なぜなら避難所では雑魚寝状態なので、眼鏡をケースに入れておかないと踏まれたりして破損してしまうからです。

——東京でも帰宅できずに会社や公

共施設に泊まった人がたくさんいて、レーシックしておいて良かったという人がずいぶんいらしたようです。いざというときは命にもかかわりますね。

小笠原 今回、昼間の地震でしたが、沢山の方が被災されました。夜間ではさらに危険が高まると思います。避難所にいる方がどんな暮らしをされているかという、朝食のあとは、皆さん避難所を出て、ご家族や知人の方を探しに行くのです。ですから、見えないと本当に困るわけです。また、救援活動をされる消防士さんは活動する時にゴーグルとマスクをつけます。ホコリがすごいですから。メガネの方はゴーグルができないとか、メガネが曇ってしまうとか。コンタクトレンズの人は目にゴミが入ったときに困ります。このことは被災地の消防署員として活動している当院でレーシックを受けた方から直接聞いた話です。アメリカ軍はみんなレーシックを国費で受けています。日本の自衛隊員にもレーシックは必要だと思います。

——銀座眼科の事件以来、レーシックに不安を感じる方もいらっしゃるようです。

小笠原 あのように非常識なことは考えられません。ただ、地方の方で、連休などを利用して都会の安価な施

設で受けて来られる方がいらっしゃいますが、術後の経過観察は大事です。また、術前に円錐角膜などの病気を見逃さないことも大切。ぜひ、このネットワークを活用して、長くお付き合いできる施設を選んでほしいと思います。

——震災以降、患者さんからのお問い合わせに「手術中にもし地震がきたらどうなりますか？大丈夫でしょうか？」という質問が寄せられているようです。もし手術中に地震がきたら、どうなのでしょう？

小笠原 レーシックの今のレーザーは、患者さんの目が動くのを追跡するトラッキングというシステムがありますし、大きく動けば自動的に止まりますから大丈夫です。マイクロケラトームでフラップをつくる時は、ほんの数秒ですから。今回のような大地震の場合、もし途中で手術を中断したら、後日改めて追加の手術をすることになるかもしれませんが、それでも安全ですので、ご心配されることはありません。

——安心 LASIK ネットワーク代表の坪田先生は、地震のときにちょうどフェイキック IOL という高度近視用の眼内レンズを入れる手術の最中だったそうですが、しっかり手術を終えて、患者

様に「もう眼鏡なしでいつでも避難できますよ!」と言われたそうです。

小笠原 高度近視の方だったら、目が見えるようになって安心だったでしょうね。私は地震が来たときは診療中でした。すぐに患者様を柱の近くの物が落ちてこない安全な場所に避難誘導をしましたので、けが人は出ませんでした。棚にはすべてストッパーをつけてあり、空調装置は鉄筋に直接固定させていたので大きな被害はありませんでした。毎年防災訓練をしていたので、それが役に立ちました。蛍光灯などの照明器具が落ちてくる心配もあり、頭上には特に注意を払いました。揺れが落ち着いてから、診療は中止にして、急を要する患者さんだけ、手持ちのスリットや眼圧計で診察をしました。停電したときに昔のアナログの機器が役に立ちます。緑内障の患者さんには、

点眼薬を院内で処方してお帰りいただきました。当院には手術室があるので50分間の非常用電源装置を常備していましたが、もっと大きなものにしようと思いました。この度の震災は本当に未曾有の災害で、まだまだ復興に時間がかかると思います。坪田先生たちの計らいで、眼科診療バス (Vision Van) が巡回するようになり、眼科医療の新たな取り組みも始まりました。これからも地域の眼科医療に貢献できるように取り組んでいきたいと思っています。

——本日はありがとうございました。



レーシックを受ける前に
下記 10 項目を確認しましょう。

10 のチェックリスト!

- 視能訓練士などの眼科検査スタッフが十分な検査を行い、その後、眼科専門医による診察を受け、検査内容と結果について医師からきちんと説明を受けましたか？
- 高度近視の人や、角膜の厚さが薄い人の場合、レーシック以外の術式も選択肢として検討しましたか？
- 術前検査とカウンセリングに十分な時間を持ちましたか？レーシックの治療について、十分理解できましたか？
- 年齢やライフスタイル、手術の目的などを考慮した目標視力の設定を、医師と十分に話し合う時間を持ちましたか？
- 手術の合併症やデメリットに対する説明を受けましたか？
- はじめての適応検査の後、手術までに一定の日数を空けていますか？
- 手術後、短期のみならず長期にわたる定期検査を行う予定がありますか？
- 執刀医を把握できる診察でしたか？ 担当医師、執刀医は「眼科専門医」でしたか？
- あなたが不安に思うことを、きちんと質問できましたか？ 医師はそれにきちんと説明してくれましたか？
- 術後に問題があった場合には、最後まできちんと治療をすることが期待できる施設ですか？

体験談

救助活動にレーシックが役立ちました!

消防という仕事をしている私の身近にはコンタクトレンズの使用で困っている人がいました。水が出ないためにコンタクトレンズケースを洗浄できない。お店が閉まっているため洗浄液が無い。取り替えるレンズが無い。24時間あるいは2、3日つけたまま活動している署員もあり、少しの時間を見つけ目薬を点眼していましたが、衛生上は良くないと知っていても活動のため仕方がなかったと思います。また、塵が舞っていてゴーグルを装着しなければならぬのですが、メガネが邪魔で思うように活動できないというストレスもあったようです。

その点、私は視力矯正手術をしたことにより何もストレスを感じることなく活動できました。レーシック等の屈折矯正手術は、消防士採用試験の規定視力をクリアするためだけでなく、今後の救助活動に本当の必要性があるのだと思います。

21歳 男性 (大船渡市在住消防士)

